

中村直勝博士古稀記念会編

中村直勝博士蒐集古文書

本書は中村直勝博士の古稀の寿を記念すべく、博士の蒐集された古文書三五五通を刻印し、詳細な解説を附して上梓されたものである。私も、石田善人氏を手伝つて、その解説に微力を供した一人としてここに紹介させていただく。文書内容は平安時代五通・鎌倉時代四二通・南北朝時代三〇通余・室町戦国時代六〇通余、以下江戸時代のものである。文書内容から云えば、院宣・太政官符案・東寺長者宣・將軍家御教書・東大寺政所下文・將軍家政所下文・東大寺奉行所奉書・室町幕府奉行人連署奉書等の公文書、寄進状・軍忠状・著到状・請文・起請文・願文等で注目すべきものがあり、伊賀国黒田庄・美濃国大井庄・山城国拜師庄・丹波国大山庄などすでに著名な荘園に関するものや、長講堂領・法金剛院領などの関係文書で、いくつかの新史料を含んでいる。しかし博士の古文書に対する魅力の存する分野がにじみ出て、とくに消息文が

多い。花園・光厳・後光厳・後小松・後柏原・後奈良・正親町・後陽成・後西・明正・靈元・孝明等の天皇の宸翰御消息は庄巻であり、造東大寺大勧進架西・東大寺聖守・足利義満・三条西実隆・山科言繼・近衛信尹・宇喜多秀家・金地院崇伝等の消息等も貴重であり、津田宗及・細川幽斎・古田織部・織田有楽斎・本阿弥光悦・小堀遠州・千宗旦・千宗左・金森宗和等の茶人、春屋宗園・玉室宗珀・江戸宗玩・沢庵宗彭・一絲文守・翠巖宗珉・伝外宗左等、大徳寺を主とする禅僧の書状墨跡がその数において多い。とくに金森宗和の書状は、江戸初期の芸術史料として注目すべきものが多い。

私達が手伝つたのは、七月中旬頃から約一カ月の間であつたが、とくに茶人の消息文は難解で、鳩首検討したが結局文殊の智慧が出なかつたものも多々あつた。この種のもの十数点は、赤松俊秀・桜井景雄・林屋辰三郎の諸先生方に読んでもらおうとしたところ、一言のもとに一審さしめどし、原稿を作れと云われた時は、暑氣も加わつて、古文書の魅力どころか、古文書恐怖症にとりつかれた形だつた。一一一号文書として収められている三

条西実隆書状に至つては、どこからどう連がつてゆくのか、まさにクイズものであり、博士の「古文書の魅力」中の「誰も解けない暗号文字を読解した者のみの味への快感。それが古文書がすらすらと読めた時の甘味である。」との心境とは、かなりへだたつた苦行であつた。このような書状を床間にかけて生活に潤ひをもたせるためには、まずわれわれの僅かな蔵書ではあるが、その書物の下に埋められている床間を解放してやることを先決であるとして、ペンを握りて話したこともあつた。しかし、そのような中であつて、古文書に対する歴史研究者のあるべき厳しい態度をたたき込まれたのであつたと、今、この書と共に師の恩につつまれている。(A5判 コロタイプ三十二葉・本文・解説共三九九頁 中村直勝博士古稀記念会刊 なお頒布希望の向には、京都大学文学部国史研究室にて、頒価一、五〇〇円にて取扱中) (三浦圭一)

水口町志編纂委員会編

水口町志

東海道五十三次の宿駅として著名な滋賀県甲賀郡水口町の、町制六十周年を記念して企